

# 日本教育岩手

〒020-0024 盛岡市菜園1-11-15

日本教育会岩手県支部 TEL 019-623-8100

代表 八重樫 勝



## あらためて「指導主事」を考える

東京学芸大学

理事・副学長 佐々木 幸 寿

### 「指導主事」の仕事を考える

今年の三月に『指導主事の仕事大全』（教育開発研究所）を出版した。この企画は、十年ほど前に、同社の編集者である大沼和幸氏に提案していたのであるが、十年を経てようやく実現した。

かつて、私も、指導主事としての仕事をしたことがある。当時は、いきなり、学校現場から教育行政の場に放り込まれて、見よう見まねで、最低限の仕事は何とかこなす毎日だった。前任者の残した原議を頼りに、その仕事を踏襲するだけで精一杯であったように思う。法改正や国の学習指導要領改訂等に関する通知、上司からの指示を取り込むだけで限界に達し、自分の頭を使って新たな工夫を施す余地などなかった。現在は、当時とは異なると思われるが、指導主事育成は、どの程度計画的になされているのだろうか。

### 教師とは異なる資質が求められる

指導主事は、配置される機関や部署によって期待される役割が異なっている。本庁の指導主事は、細分化された部署業務ごとの業務企画運営や人的管理、教育センターは教員研修、教育事務所は市町村への支援と人事調整、市町村教育委員会で是非常に多岐わたる内容を総合的に処理することが求められる。

これらの仕事で求められる資質・能力は、教師のそれとは基本的に異なっている。教科に関する専門的な支援でさえ、教師として身につけた知識は教育課程行政全体の枠組みに整合性をもって位置づける必要がある。また、最新のワークショップ理論など適切な手法によって展開する必要がある。とがった人材が必要とされる現代

教師は、教育委員会制度と県費負担教職員制度を背景にして、都道府県からも、市町村からも相対

的に独立した特有の人的ネットワークを形成していると言われる。これを背景にして、子どもへの献身を重視し、長時間勤務を厭わずに働く習慣が形成されているとも言われている。わが国の教育は、このような教師の献身に依存して成果をあげてきた。

指導主事も、インフォーマルな暗黙の同調圧力の中で仕事を進めることが求められる。「協動的」であることが優先されてきたように思われる。しかし、教育をめぐる状況は大きな変化を迎えている。Society 5.0の到来は、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が現出することを意味している。国の打ち出した政策や学習指導要領を踏襲するだけでは到底乗り越えられないであろう。

この荒波の中で地方が生き残っているためには、教育界においても、不確実なVUCAの時代をリードする人材が必要とされる。将来の教育行政を担う指導主事にも、「自由で豊かな発想」とがった人材を育てていくことが必要とされているように思われる。

# 令和4年度支部定期総会 事業計画・予算案を承認

## 講演は上原康樹氏が熱弁

平成4年度日本教育会岩手県支部定期総会は、5月28日(土)午後1時から、岩手県教育長、盛岡市教育長を来賓に迎え、理事、監事、代議員、支部役員の総勢42名の出席のもとサンセール盛岡で開催されました。

開会行事で、八重樫勝支部長は来賓、会員への出席御礼の後、「マスク着脱について検討している旨の政府の報道がありました。現場の皆様方には連日何かとコロナ対策には神経をすり減らす毎日かと思われま。岩手県支部も、令和3年度はこのコロナ禍の中、当初計画した諸会合や事業を大幅に変更せざるを得ない状況にありました。



支部定期総会の様子

今年度も、特に総会については、他団体の実施状況等も参考にして実施するか否か何度も皆で検討をしました。本来であれば、諸事業実施に向けて、皆様に御礼やお願いをたくさんしなければならぬところですが、詳細は総会資料をご一読ください。岩手県支部は、先輩方大変なご苦労と会員のご理解、ご支援の中で歴史を重ね、今や全国有数の会員数となっております。『岩手の教育の正常にして健全な発展に寄与する』との教育会の目的を推進するため、皆様のご指導、ご支援をお願いするものです。本日の講演は、上原康樹さんをお願いしました。語りやお話、しゃべりを商売にしている我々教職員にも大いに参考になるものと期待をしております。国の内外では悲惨で心えぐられる事件や事故が続いております。岩手の子ども達が自他の命を大切に健やかな人間として育ってくれることを願っています」と挨拶。

次いで、ご来賓を代表して岩手県教育委員会教育長代理教育次長兼学校教育部長高橋一佳氏から

「本県教育の振興にご理解、お力添えをいただき感謝。今後求められる教育の推進に、豊かな教職経験と確かな識見をもとに助言とエールを送っていただければ幸いです」とのご祝辞をいただきました。

続いて議事に入り、議長には盛岡市立山王小学校校長後藤敏信氏と仙北中学校校長菅井雅之氏を選出、事務局提案の令和3年度事業報告・決算報告、令和4年度活動方針・予算案等が審議され、全議案が拍手で承認されました。

### 講演「岩手への道」

岩手県議会議員 上原康樹氏

総会終了後午後2時半から講演会が行われ、岩手県議会議員で元NHKアナウンサーの上原康樹氏が「岩手への道」と題して講演をされました。

「岩手との出会い」、「4年間の単身生活」、「風変わりな天気予報」、「撮り続けた写真」、「今、こ



講演される上原康樹氏

れから」、「教育に思う」について、熱く、にじみ出るように、じっくりと語っていただきました。(講演の概要は次号で紹介します)

### 令和4年度 日本教育会岩手県支部役員

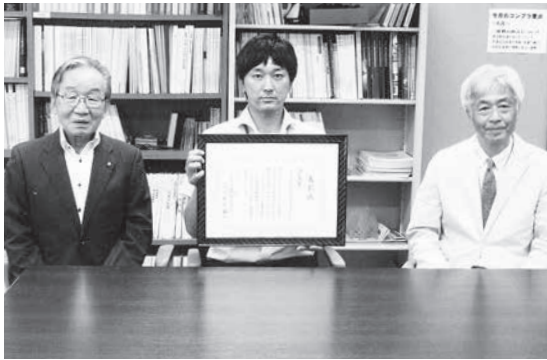
- |            |       |        |
|------------|-------|--------|
| 支部長        | 高橋ひさ子 | 八重樫勝   |
| 副支部長       | 玉川 英喜 | 三浦 壯六  |
| 理事         | 中屋 豊  | 高橋 忠孝  |
| 監事         | 芦 宏   | 菅原 壽   |
|            | 佐野 理  | 紺野 好弘  |
|            | 相原 伸裕 | 梅津久仁宏  |
|            | 木村 幸治 | 亀山 丈   |
|            | 菊池 敏宏 | 金澤 広利  |
|            | 南幅 正勝 | 佐藤 尚   |
|            | 森 和佳子 | 武田 伸一  |
|            | 澤田 育生 | 千葉龍太郎  |
|            | 佐藤 勉  | 阿部 拓也  |
|            | 村木 登  | 熊谷 広克  |
|            |       | 浅倉 圭   |
| 理事・組織事業部長  | 田山 英治 |        |
| 広報出版部長     | 川村 祥平 |        |
| 調査研究部長     | 平澤千麻子 |        |
| 事務局長       | 中川 誠悦 |        |
| 特別参与       | 新沼 敏哉 |        |
| 書記         | 若林 晶子 |        |
| 東北ブロック代表理事 | 高橋ひさ子 |        |
| 地区会長・事務局長  |       |        |
| (会長)       | 佐々木 真 | (事務局長) |
| 盛岡         | 高畑 嗣人 |        |
| 岩手         | 中田 直雅 | 藤野 高嗣  |
| 紫波         | 島山秀一郎 | 森 和佳子  |

令和3年度第12回教育実践顕彰事業

岩大附属中の論文が会長賞

岩手が4年連続受賞の快挙

(公社) 日本教育会の主催事業「第12回教育実践顕彰事業」に本県から応募した4校のうち、岩手大学教育学部附属中学校の論文「新しい社会を生き抜く『人間の強み』を育む学びの追究」『ICTの効果的な活用』×『主体的・対話的で深い学び』で資質・能力を効果的に育成する授業』(溝口昭彦校長・執筆者・研究主任平澤傑教諭)が見事、全国43編の応募論文の中から最高賞である「会長賞(賞状・奨励金10万円)」を受賞しました。この賞は今まで、平成30年から盛岡市立上田中学校、遠野市立土淵小学校、田野畑村立田野畑中学校と3年連続で受賞しており、これで岩手県内の学校が4年連続で獲得するという快挙を成し遂げました。さらに、盛岡市立生出小学校の佐藤淳校長と、久慈市立山形小学校の角谷隆章校長が執筆した論文も「奨励賞(賞状・QUOカード1万円)」を受賞しました。表彰式は6月18



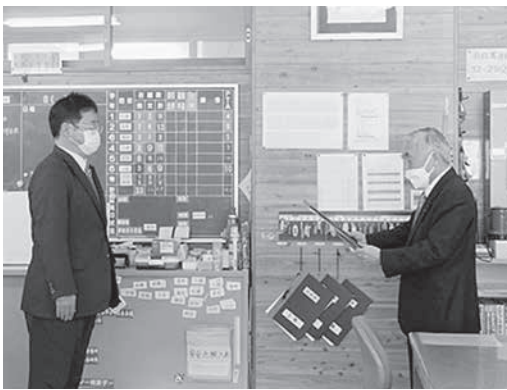
八重樫支部長より伝達された賞状を披露する岩大附属中・平澤傑教諭、右は溝口昭彦校長



盛岡市立生出小・佐藤校長先生への伝達

募論文の中から最高賞である「会長賞(賞状・奨励金10万円)」を受賞しました。この賞は今まで、平成30年から盛岡市立上田中学校、遠野市立土淵小学校、田野畑村立田野畑中学校と3年連続で受賞しており、これで岩手県内の学校が4年連続で獲得するという快挙を成し遂げました。さらに、盛岡市立生出小学校の佐藤淳校長と、久慈市立山形小学校の角谷隆章校長が執筆した論文も「奨励賞(賞状・QUOカード1万円)」を受賞しました。表彰式は6月18

日(土)に東京で開催された(公社)日本教育会総会の場で行われる予定でしたが、都合で参加できなかったため、本部より送付された賞状を八重樫勝支部長が、6月22日(水)に附属中学校を訪問して伝達しました。賞状を受け取った平澤教諭は「教職員全員で一生懸命取り組んだことを高く評価いただき、ありがとうございます。今後、県内の各学校に役に立つような研究に取り組んでいきたいと思っています」と、その喜びを語っていました。また、3月には奨励賞の生出小、山形小にも、本部から送付された賞状を伝達し、その榮譽を称えました。(岩大附属中の論文の概要は、4・5面に掲載)



久慈市立山形小・角谷校長先生への伝達

令和4年度 一般財団法人岩手県教育振興基金役員

(公社) 日本教育会代議員(2名) 芦 宏 北田 伸 (任期令和4年~令和5年)

- 花巻 菅野 広紀 横手 勝美
遠野 中浜 艶子 平 芳則
北上和賀 澤田 育生 八重樫浩二
胆沢 久保田 淳 加藤 均
江刺 菊池 慧 晴山 光弘
一関西 渡邊 淳 佐々木秀善
一関東 皆川 修 佐藤 勉
釜石 村上 亮 熊谷 広克
宮古 青笹 幸一 及川美香子
下北 村木 登 五十嵐善彦
九戸 大芦 賢一 佐々木敏之
二戸 佐藤 純子 松岡 聡
菊池真理子

令和4年度 一般財団法人岩手県教育振興基金役員

- 理事長 八重樫 勝
副理事長 梅津久仁宏
理事 星 俊也 後藤 敏信
菅井 雅之 熊谷 純
亀山 丈
常務理事 小水内邦子 三浦 壯六
(任期令和4年~令和5年)
監事 鈴木 美成 小原 由紀
千葉 紅子 佐々木寿洋
(任期令和3年~令和6年)
評議員 鈴木 美成 小原 由紀
細田 多聞 藤枝 修
木村 幸治 板橋 政志
田代 英樹 菊池 敏宏
佐藤 尚

### いわての教育実践研究～その16～



**新しい社会を生き抜く「人間の強み」を育む学びの追究**  
 「ICTの効果的な活用」×「主体的・対話的で深い学び」で  
 資質・能力を効果的に育成する  
 岩手大学教育学部附属中学校 研究主任 平澤 傑

(公社) 日本教育会主催の「令和3年度第12回教育実践顕彰事業」に応募した岩手大学教育学部附属中学校の実践をまとめた論文が最高賞である「会長賞」に見事に輝きました。執筆・研究主任の平澤傑教授に論文の概要をまとめていただきました。

#### 一・育成する資質・能力とアプローチ

本校では、生徒が新しい社会を生き抜くために必要な資質・能力について、教職員間で議論し、「思考力」「協調性」「主体性」と定めた。これらの資質・能力の向上を促進する力として「情報及び情報技術活用能力」、3つの資質・能力の土台となる力として「文章を正確に理解する読解力」を位置付けた。育成を目指す3つの資質・能力については、どのような姿がその力を備えている状態かを各教

員が漠然と捉えているだけでは、教師の感覚や主観のみで生徒を育成・評価することに繋がりがかねない。具体的な生徒の姿として共有しておくことで、それぞれの教員が指導する際の指標となり、同時に適切に評価することにつながる。本校では、職員22名から自由記述による回答を得て、生徒への質問紙調査及び統計処理により内的整合性のある「附属中学校版資質・能力尺度」を開発した。そして資質・能力を育成する最も効果的なアプローチについて、「主体的・対話的で深い学び」「ICTの効果的な活用」の二視点を挙げた。「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る際、次のような授業展開を改善するよう職員間で共有した。

①話し合いの時間は確保されているが、教師の問題解説により進行する授業、生徒による自己決定が少ない授業

②一定の時間を生徒に与え、生徒がやりたいことを放任的に行わせる授業  
 ③生徒自身が活動を行うが、多様な考えをコーディネートできずに最後に教師が「答え」を提示、優れた生徒の考えを提示して終わる授業

さらに、「ICTの効果的な活用」を授業に位置付ける際、次の段階を意識するよう共有し、活用レベルを上げた。

	生徒の学びの様子
高い	ICTを用いることでしか実現し得ない新たな学び
中程度	ICTを用いることでより教科生徒の見方・考え方が働き、主体的・対話的で深い学びを促す
ほぼ無い	ICTを用いてアナログをデジタルに置き換える
逆効果	ICTを用いること自体が目的となり、資質・能力の育成を妨げない

**二・実践例**  
 (一) 生徒自身が本当に解決したいと思える「問い」をもたせる  
 技術・家庭科では、実生活から問題発見を行い、題材の学習に繋がっている。総合的な学習の時間では、盛岡の地域課題を見出し、解決の方策をグループで考え、提言するという活動を行っている。このように、生徒自身が本当に解決したいと思える問いをもつことは、主体的・対話的で深い学びの質を高め、自力解決を促す。

(二) 主体的・対話的で深い学びをコーディネートする  
 生徒に活動を委ねるとき、教師は往々にして全体をただなんとなく見渡しがちである。本校理科では、生徒個々の記述や対話の様子から、生徒一人ひとりがどのようなことを考えているかを見取り、その後の全体議論や意見交流のコーディネートに生かしている。生徒個々の考えを適切に把握し授業を運営することは、教師に必要な大切なスキルである。生徒の考えを効率的に把握するために、ICTを用いた方法も併用している。

(三) 生徒に学びの選択権を与え、自己調整を促す  
 英語科では、生徒が英語による対話をタブレットで撮影し、学習

支援アプリにアップロードする。生徒は、全員の対話を自由に閲覧することができ、必要に応じて他の生徒の対話を参考にしたり、自分の対話と比較したりしながらメタ認知し改善を図る。理科では、生徒が自分で計画した実験方法で実験を行い、共同作業アプリに実験結果を共有する。生徒のタブレット上に全員の実験結果がリアルタイムで共有されるため、他の生徒の実験結果も自由に考察材料にしながら、質の高い探究を進めていく。



**(四) 教科等の見方・考え方をより働かせる**

保健体育科では、タブレットで運動を撮影し合い、動画をじっくりと分析することで、自分の動き方や動作時の判断を客観視し、修正・改善を図っている。美術科で

は、色彩分析アプリを用いて色情報や数値化し、微妙な表現の違いを明らかにしたり、表現方法を言語化したりする活動を行っている。数学科では、動的な図形ソフトを用いて、タブレット上で自由に図形を操作しながらその性質を本質的に理解している。



**(五) 協働学習の規模を拡大する**

本校では、他県の学校とリモートアプリを用いた遠隔授業を複数回実施している。内容は、一つの問題について学校を越えて協働し解決するものである。この活動のねらいは「集団のメタ認知」にある。これまで、協働の質は指導者の理念や指導法に大きく依存するという課題があった。この実践を

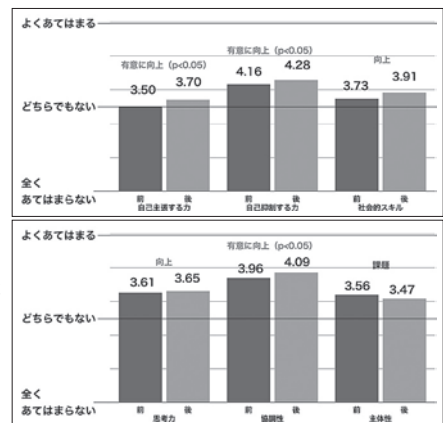
通して、他の地域や質の異なる生徒と協働することにより、「相手の生徒は物怖じせず考えを主張できる」といった比較を通して、自校での話し合いの質を生徒自身の力で高めることができています。



**三・生徒の変容**

2020年2月～2021年3月、全教科等で授業改善及び実践を中長期的に行った。さらに、月一回程度校内研・拡大校内研（他の学校から参加者を募る）を実施し、授業改善を図った。校内研では職員間で細かく意見を出し合い生徒の変容を分析した。

まず、コミュニケーションにおける「自己主張する能力」と「自己抑制する能力」が有意に向上した。これは、授業において自らの意見を主張したり合意形成のため自分の意見を抑え調整を図ったりする必要が生まれたこと、I



CTにより協働の規模が拡大したことが理由と考えられる。生徒の様子からも、他者との通信・協働場面で協働や対話を抵抗なく行い、問題解決のために活発に意見交流する姿が増えた。また開発した資質・能力尺度では、思考力に関わる力の向上も窺えた。生徒の様子を見ると、身につけた知識・技能どうしを関連させ、自分の考えとして整理・表現する場面が大幅に増えている。これは、授業改善により知識を構造化させたり他者と考えを深めたりする学習活動が増えたこと、学習の調整を促したことが理由と考えられる。  
(<https://youtu.be/s-MStJy8gE>参照) 一方、主体性については伸長に課題がみられたため、今後この向上のためにさらに研究を推進していく所存である。

令和3年度第12回教育実践顕彰事業・会長賞 講評



これからの学校教育に  
求められる先進的な実践

(公社) 日本教育会理事長  
論文審査委員 笹尾 幸夫氏

会長賞を受賞されました  
岩手大学教育学部附属中学  
校の皆様、誠におめでとう  
ございます。貴校の論文は、  
これからの学校教育に求め  
られる資質・能力を育成す  
る先進的な教育実践である  
とともに、本研究に教職員  
が一丸となって取り組み、  
顕著な成果を上げられた点  
で会長賞に相応しいもので  
あると評価されました。

人工知能(AI)やロボッ  
ト工学等の先端技術があらゆる産  
業や社会生活に取り入れられ、社  
会の在り方そのものが劇的に変わ  
ろうとしている昨今、AIには代  
替できない「人間の強み」を發揮  
するために必要な資質・能力の育  
成は、これからの教育に特に重要  
です。この点に焦点を当てられた  
貴校の論文は、「文章を正確に理  
解する読解力」を土台とした「思

考力」、「協調性」及び「主体性」  
を資質・能力とし、これらを具体  
的に定義しています。また、生徒  
の変容を判断するため、「附出版  
資質・能力尺度」を教職員のポト  
ムアップ方式で作成しており、ま  
さに先進的な取組でした。

さらに、資質・能力を育成する  
ため、「主体的・対話的で深い学び」  
と「ICTの効果的な活用」の2  
つの視点から、全教科・領域にお  
いて授業改善を行っており、本研  
究を教職員が一丸となって取り組  
まれた点も高く評価されました。  
前者の視点では、「改善が必要な  
授業の特徴」を明確にして授業改  
善を実施し、後者の視点では、I  
CTの四段階の活用レベルを明ら  
かにし、より高いレベルの授業と  
なるよう工夫しています。  
論文には、教科毎の実践例が紹  
介されており、多くの学校で参考  
になるものと思います。

◇正会員

○高等学校長協会

盛岡地区 (1名) 川崎広幸

岩手地区 (1名) 菊池省治

花巻地区 (1名) 佐々木伸良

遠野地区 (1名) 高橋堅

北上和賀地区 (1名) 駒込武志

一関西地区 (3名)

石井美樹子・菅原基・谷浩明

一関東地区 (1名) 佐々木信明

気仙地区 (2名)

千葉久・石川則子

釜石地区 (3名)

青木裕信・伊東道夫・  
外館梯

宮古地区 (2名)

佐藤禎信・鈴木卓

下北地区 (1名)

藤田知彦

九戸地区 (1名)

佐々木寛

二戸地区 (1名)

今野雅之 (計19名)

○高等学校副校長協議会

盛岡地区 (6名)

和田健利・中村和平・畠山恵子・  
村上真子・松本論・伊藤晃

岩手地区 (3名)

佐々木均・後藤知恵・佐々木文彦

花巻地区 (3名)

谷地信治・牛崎芳恵・熊谷恵美

岩手県教育振興基金  
寄附者御芳名

(敬称略)

北上和賀地区 (3名)

高橋直樹・切田壮・坪谷有也

一関東地区 (1名) 佐々木宏行

気仙地区 (2名)

水上弓枝・沼崎貴志

釜石地区 (2名)

竿代愛也・佐藤康伸

宮古地区 (3名)

木村総司・伊藤康二・吉田英男

九戸地区 (5名)

山田知弘・小岩篤郎・  
柴田護・佐々木順一・  
上川達也

二戸地区 (5名)

野里拓郎・高橋国博・  
佐々木正人・新田剛史・  
佐藤修子 (計33名)

今回は、(公財) 岩手  
育英奨学会への助成金  
1万円の御寄附を頂い  
た、令和4年度新任の

岩手県高等学校長協会と、同じ  
く(公財) 岩手育英奨学会への  
助成金1万円及び教育振興基金  
5千円、合計1万5千円の御寄  
附をいただいた岩手県高等学校  
副校長協議会の正会員の先生方  
をご紹介させて頂きました。暖  
かいお志をお寄せ頂き、多額の  
ご支援・ご協力を賜りましたこ  
とに深く感謝申し上げます。



随想

雑学のススメ ～名言・迷言編～

岩手県立博物館 館長 高橋 廣 至

数年前のある日、「館長、博物館日曜講座をお願いします」と講座の担当者がやって来ました。「いや、私は金野静一先生（元館長）」と違い、歴史学者でもないし、講話する何ものも持っていないので、「と断りの返事をしますと、「いえ、館長は日頃私達に、『昨日のことは全て博物館、この世の物は皆博物館』とおっしゃっていますか

ら、館長の博物館学をお話ください」と言う。これは一本取られた、との思いで講座を引き受けることにしました。確かに日本博物館協会には、博物館はもとより美術館、科学館、文学館、水族館、動物園、植物園等、多岐に渡り様々な館や園が所属していますから、やはり、この世に存在する全ての物は、「言葉」

スポット その176

岩手県小学校長会 会長  
理事 紺野 好弘氏  
(盛岡市立桜城小学校 校長)

「校長先生、おはようございます。今日は雲一つない青空ですね」校門で毎朝子どもたちを迎える紺野校長先生に、子どもたちは一言付け「たして、気持ちのいいあいさつをします。これは、相手意識をもって、心が通い合ったあいさつをするために紺野校長先生の呼びかけで始まったあいさつです。」



「校長先生、おはようございます。今日は雲一つない青空ですね」校門で毎朝子どもたちを迎える紺野校長先生に、子どもたちは一言付け「たして、気持ちのいいあいさつをします。これは、相手意識をもって、心が通い合ったあいさつをするために紺野校長先生の呼びかけで始まったあいさつです。」

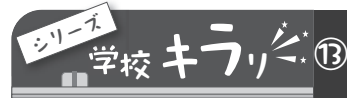
を高め広く豊かな知識を私達に与えてくれる博物と想っています。講座は「雑学のススメ」と題して、講演内容には高齢者の方々や笑いを合える堅苦しくない、現代に通じる名言や格言等を選んでいきます。今回は、その中から一つお話しします。皆さんもご存じの孔子の論語に、「私は、四十歳になり物事を決めるにあたり迷うことがなくなりました。五十歳のときに自分の天命を理解し、六十歳のときにようやく人の意見に素直に耳を傾けられるようになった。そして七十歳になって、自分の思うように行動をしても人の道はずすことはなくなりました」とのお話があります。さて、皆さんは、ご自分の今の年代に当てはめて孔子の話されていることが理解できますか。私などは不惑の四十歳を振り返っても惑ってばかりの毎日だったと思います。また、六十歳を過ぎても他人の言葉に素直に耳を傾けられずに頑固な日々を過ごしています。孔子は七十三歳まで生きましたが、当時の中国の平均寿命は三十歳程度です。今の私たちと単純に比較することはできませんが、人生百年時代ともなりますと、年代

によって生き方や考え方も変化してくるのではないのでしょうか。つい先日、現代版の論語とも言うべきものに出会いました。「われ四十にして初めて迷い、五十にして益々迷い、六十にして迷いを極め、七十にして迷いを楽しみ、八十にして迷いを悟り、九十にして迷いを終わり、百にして迷わず」（能村龍太郎・太陽工業株式会社創業者） 皆さんは、どう思われますか。私は妙に納得しています。現代は寿命も延びています。還暦を迎えて、もう年だと老け込んではいられません。まだまだやる事が沢山あります。それに伴う迷いも多いたは思いますが、迷いを極め、楽しみ、本当に迷いがなくなるか、百歳まで生きてみましよう。江戸時代の禅僧・仙厓和尚は、「六十歳は人生の花、七十歳で迎えがきたら、留守だといえ。八十歳で迎えがきたら、早過ぎるといえ、九十歳で迎えがきたら、急ぐなといえ、百歳で迎えがきたら、ぼつぼつ考えようといえ」という言葉を残しています。現代の高齢者は、まだまだ活力あふれる幸福者です。もしも、あちらの世界からお誘いがありましたら、仙厓和尚の言葉を思い出し

てください。

# 「地域の先生」から「地域の宝」を学ぶ

一戸町立小島谷小学校 校長 松尾 葉子



本校の東隣に樹齢数百年以上と推定されている国指定天然記念物「藤島のフジ」があります。小島谷の学区には、他にも国指定重要文化財「旧朴館家住宅」もあります。さらに農業も盛んなところで、学びたいものが学校の近くに数多くあります。子どもたちが地域について学ぶことは、地域に誇りを持つことに繋がります。地域を支える人材の育成になると期待しています。児童が、地域の宝物そのものの価値を知るだけではなく、「宝を守ろう、継承しよう」とする地域の先生たちの熱意も知ることのできる活動のいくつかを紹介します。

## 一 「藤島のフジ」を守る活動

国指定天然記念物「藤島のフジ」の保護活動として、全校児童で春と秋に清掃活動を行っています。この活動は、小島谷地域振興会の皆さんと共に30年以上続いている活動です。清掃活動の前に振興会の方に、フジの歴史や保護活動を行ってきた振興会の歩みを教えて

いただきます。清掃活動では、枝を拾ったり落ち葉を集めたりします。落ち葉で堆肥も作ります。秋の活動では、きれいなフジの花が咲くようにと願いを込めながら、根元にその堆肥を播いています。

## 二 伝統芸能「七ツ踊り」

毎年運動会で、全校児童による一戸町指定無形民俗文化財「小島谷七ツ踊り」を披露しています。保存会の皆さんに、格好良く見える踊りのコツを教えてくださいながら、熱心に練習を続けています。今年度は、一戸町や小島谷の文化や伝統を広めようと頑張っている「スマイル委員会」が全校児童に



農業体験でサツマイモの収穫

声を掛け、児童主催の練習会も行われました。本番では練習の成果が発揮され、最高の演技になりました。保存会の皆さんに褒めていただき、児童は満足感・達成感に溢れた表情をしていました。

## 三 農業体験

毎年、1年生から4年生が畑作体験、5・6年生が稲作体験を行っています。地域の農業の先生に教わりながら、畑ではカボチャ、サツマイモ、ジャガイモを育てています。稲作体験は、苗作りからかわり、田植え、稲刈り、脱穀など様々な行程を体験させていただいています。試験田を作り、毎年、米粒を数え、出来具合も記録しています。また、地域には百年以上前に作られた「小島谷用水」があります。農業の先生と用水路を辿って探検することも、児童にとつては貴重な体験です。

## お詫び

支部会報「日本教育岩手」第191号「巻頭言」に原稿をお寄せ頂きました岩手県国公立幼稚園・こども園協議会会長のお名前を今野充雄氏と掲載しましたが、正しくは今野充雅氏でした。お詫びして訂正いたします。

# 山寺の鐘

低年齢層の罹患率が高いコロナが再拡大する中、今年も新年度はスタートした。

園や学校ではこれまで以上に感染防止や陽性者対応に神経を使い、真摯に取組んでいる。長期にわたる対応が続く、気の休まる間がなく教職員や学校関係者には本当に頭が下がる。毎朝、我家の前を元気に登校する児童たちの姿を見る。4月、その中に親に手を引かれ足取り重く歩いている新1年生を見かけた。それから数日後、その子の手を引くのは上級生たちに替わり、不安に涙をためていた顔はにこやかな笑顔になっていた。ホッと胸をなで下ろし成長していく子の姿に温かい気持ちになった。

学校・家庭・地域の中で日々育つ子どもたち。外に目を向ければいまだ続く不安な国際情勢。こんな時だからこそ子どもたちに自他の「命を大切にする心」を育み、皆が幸せに暮らせる未来に繋ぐために、私たち大人が何を為すべきか真剣に考えていかなければならない。

(千)